

令和元年度第1回美浜町総合計画審議会議事録

日 時：令和元年10月31日（木）10時～12時

場 所：美浜町役場 3階 大会議室

出席者：審議会委員13名、事務局5名

審議会 千頭会長、牧副会長、川上委員、吉田委員、野田委員、横田(和)委員、
横田(全)委員、廣澤委員、廣重委員、久木委員、岩川委員、加藤委員、伊藤委員
事務局 杉本総務部長、磯貝企画課長、米本総務部主幹、森田企画課係長、村田主査

次 第：1 町長あいさつ

2 審議会委員の任命について

3 審議会委員の紹介について

4 審議会の運営と職務について

5 審議会会長の選出について

6 議題

(1) 審議会の公開について

(2) 第5次総合計画の概要について

(3) 第5次総合計画の見直しと経過について

(4) みはま未来会議の報告について

(5) 意見交換

(6) 今後の予定について

1. 町長あいさつ（進行：磯貝企画課長）

2. 審議会委員の任命について（説明：磯貝企画課長）

3. 審議会委員の紹介について（説明：磯貝企画課長）

4. 審議会の運営と職務について（説明：森田企画課係長）

5. 審議会会長の選出について（説明：磯貝企画課長）

・会 長：千頭聡氏（日本福祉大学教授）

・副会長：牧守氏（区長会会長）

6. 議題（進行：千頭会長）

(1) 審議会の公開について

・事務局より、当審議会は公開の対象であると説明があった。

(2)第5次総合計画の概要について

- ・事務局より第5次総合計画の概要について説明があった。

(3)第5次総合計画の見直しと経過について

事務局：令和元年度に施策の中間評価を行い、令和2年度に見直し案を作成した後、後期計画を策定し、審議会へ諮問する予定である。

委員：見直し案は、策定部会・委員会にて作成するのか、審議会で見直しの方向性を示してから作成するのか。

事務局：策定部会・委員会にて案を作成し、審議会へ諮問する際に案を提出し、審議会で議論していただく予定です。

委員：45施策の中間評価について、現状にそぐわない施策や成果指標については、審議会での議論を割愛することは可能か。

事務局：社会情勢等の変化により、そのような施策はいくつかあるので、一通り目を通していただきたい。

(4)みはま未来会議の報告について

委員：参加者の構成はどのようなものであったか。

事務局：まちづくりに関心が高い町民を始め、日本福祉大学の学生が数名参加した。

印象に残った参加者としては、町内で民泊を始めた方や美浜町の図書館が大好きで参加された方がいた。

(5)意見交換

委員：総合計画にあまり馴染みのない町民や企業との共有が必要である。

委員：これからの美浜のことなので、子供たちにも話し合いに参加してもらいたい。

委員：保育所の父母会の負担が大きい。

委員：美浜町は自然が美しい。将来的にこの自然がもっと評価され、既存の観光資源と組み合わせ活用できれば、たくさん人を呼び込めるはずである。高齢者が生きがいを持って楽しく暮らせるまちづくりも大切である。

委員：引きこもりの人にサロンへ行くよう誘うが、既に人間関係が構築されており参加が難しい。

委員：美浜に移住する前から自然が好きで頻繁に訪れていた。名古屋からも近い。道の駅のような立ち寄りたくなる施設があるといい。学校再編も取り組まなければならない。美浜町の売りを「自然」と「教育」にして町外へアピールしたらどうか。

委員：人口減少が当初の予測より進んでおり、漁業や農業の高齢化も深刻である。漁協の組合員も減り、統廃合の話も出てきている。目標値の達成も厳しい状況であり、議論しているだけではダメで、小さなことでも実行していくことが重要である。

委員：観光の立場では、運動公園を産業として捉えている。事業の継続、中止により観光の方向性が大きく違ってくる。将来的に観光協会の独立を目指しており、そのための資金作りに運動公園をあてにしているの、仮に中止となると独立までの計画を見直し

なければならない。

委員：南海トラフ大地震の発生についても総合計画で想定しておくべきである。

小中一貫校や日本福祉大学との連携等、町として教育への取り組みに力を入れる。

委員：策定時は、夢のある計画であったが、少子高齢化の進行や特に生産人口の減少が問題になっている。税収が減れば、町の事業も出来なくなってしまう。住民サービスを低下させず、事業の選択と集中が求められる。行政主体から地域主体のまちづくりへ。

委員：まちづくりに対して、女性はソフト面からアプローチできる。美浜町在住の方で様々な特技、技術を持った人達を取りまとめた「青海波」を作成した。インスタで美浜町の海が人気で、関西からも観光客が訪れる。大学との連携において、地域により学生の受入体制に差がある。奥田地区は、日本福祉大学があるので、進んでいる。今の大学生は、農業や防災に関心が高い。

委員：昔、奥田には駅やビーチランド、大学、何も無かった。それらの施設が出来て一番変化した点は、地域の住民である。学生や障がい者の方と積極的に接し、手助け等をするようになった。策定時に実施した、学区のワークショップが非常に良かった。今回は中間見直しなので致し方ないが、できればそのような機会があれば更に良かったと思う。

(6)今後の予定について

事務局：次回、第2回審議会を11月19日（火）で予定していたが、諸事情により12月19日（木）の午前9時30分より開催すると開催日の変更について説明があった。

【第2回審議会 令和元年12月19日（木）9：30開始】

以上